

ずっとたいせつにしたい
日常のたからもの

vol.79

周りを見わたすと、いつまでも変わらないもの、時とともに変わっていくもの、新しく生まれるものがあるところ。日常にある宝ものをずっと大切にしたい。



▲ 住民が守ってきた正蓮寺大日堂（小綱町）



◀ 大日堂近くに立つ「大日如来」の石柱（左端）

正蓮寺大日堂と大日如来（上）

小綱町の正蓮寺大日堂は、かつて真言宗普賢寺の本堂でした。明治時代初めの廃仏毀釈で廃絶し、売りに出されましたが、地元住民が買い取って守り続けています。

間口、奥行きとも3間の寄棟造りで、内部は礼拝場所の外陣と、本尊の大日如来坐像（鎌倉時代）を置く内陣に分かれています。文明10年（1478）銘の上棟札があり、昭和30年からの解体修理で建立当初の美しい姿に復元されました。室町時代中期の貴重な小規模仏堂で、同坐像とともに国の重要文化財です。

現在、大日堂の管理は小綱町自治会が行い、清掃や環境整備、見学者への対応、祭りなどは同町文化財保存会（辻本忠彦会長）が担当。お堂内部の見学は保存会のホームページで受け付けるなど積極的な保護活動と情報発信に取り組んでいます。

お堂内や周辺はきれいに維持されており、すがすがしい気分になって、住民の文化財愛護への高い関心を感じます。7月15日の祭り「大日さん」が今年も中止になったのは残念ですが、9～10月にはいくつかの行事が予定されていて楽しみです。